



藤岡 緑 議員



松前を最大限にアピール！ 返礼品にも特色を

学童保育体制の現状と今後の指針は

問 ①町内の学童保育体制について、三校区の現状とこれからは。
②厚労省の出した学童保育の職員基準の緩和の方針に対し、町の考えは。

上配置することになっている。そのうち支援員一人を除いて補助員に代えることができる。
北伊予小児童クラブでは、最低基準6人を10人で、岡田小、松前小の各児童クラブでは最低基準が4人のところ、それぞれ7人、9人と預かる人数や安全面を考慮した配置としている。

施設整備の進捗状況は、岡田小児童クラブについては、敷地内整備で、現在は、敷地内整備で、現在は設計業務を実施。工事は平成31年度中に、32年4月から全学年対象の運営を目指す。

して運営の予定だ。
②放課後児童の健全育成に係る人員基準を緩和し配置数、資格なども自治体で柔軟に対応できるように厚労省令が出た。
町では安全確保と健全育成のため、現行の基準通りで行く。(土曜日の利用者が少ないので、今後員数の検討の余地あり。)

答 大政保健福祉部長

①厚労省令による基準に従い一クラスごとに放課後児童支援員を二人以

ふるさと納税の返礼品に工夫を

答 升田副町長

問 この制度についての考えや取組実績、返礼品の中身について問う。
また今後松前の地場産品をもっとアピールして、返礼品へ組み込んでいく考えは。

ふるさと納税は、生まれ育った町や思い入れのある町に「頑張ってほしい、貢献したい」という思いを寄付金という形に変えて応援するものだ。
町のふるさと納税の年度の実績は本日現在で33件の58万円だ。

返礼品は、この制度開始当初から、本来の趣旨を踏まえ金額は寄付金の3割以内とし、地元の商品のみを使用している。
町の特産品である「はだか麦」を使ったお菓子は、今年6月から返礼品に加え、11月からは北川原の和将窯の陶器のカップなども取り入れている。また「はだかむぎゆ」については商品開発中だ。手続き簡素化も進め4月より電子決済システムを導入。
広く周知を図るため「ふるさとチョイス」も利用している。